

タングステンの1～3月相場予測 AMJ西野氏寄稿

西側が回復続きスポット調達増なら\$350狙う展開も

タングステンの中間原料・APTの国際相場（パラタングステン酸アンモニウム，ヨーロッパ・アメリカ）は，20年7月まで205～210ドル/Mtuと低迷していたが，8月末に反発した後は上昇を続け，21年7月末にはほぼ3年ぶりの300ドル台に回復した。以降も緩やかに上昇を続け，足元は321～330ドルと依然として高値で推移している。一方，鉄鋼原料のフェロタングステン（FeW）は20年8月に24～25ドル/kgWまで調整していたが，11月後半から急上昇すると，21年8月中旬に40ドル台に回復してから調整に入り，足元では38～39.5ドルをつけている。タングステンの世界需要は，主用途の超硬工具が20年年央から復調し，今後も堅調に推移するとみられるが，半導体不足による自動車各社の減産や，新型コロナの新たな変異株(オミクロン株)の感染拡大など，減速懸念もくすぶっている。レアメタルの専門商社・アドバンストマテリアルジャパン（AMJ）で長らくタングステンのAPT・鉄合金・スクラップを取り扱ってきた西野元樹・本部長に今年1～3月の相場見通しを寄稿してもらった。

西側内の精鉱とスクラップだけでは原料不足に

国際相場はAPT，フェロタングステンとも21年夏以降，大きく値を上げているが，中国内の精鉱相場が堅調であることを考えると，タングステン相場が大きく下落することは考えにくい。自動車産業が半導体不足の解消などで回復する時期や，オミクロン株の感染拡大による超硬工具需要への影響などの不安定要素もあるが，今後も西側諸国のタングステン需要が回復し続けると，西側内の精鉱を製錬しスクラップをリサイクルするだけでは原料を賄えなくなる。西側諸国のユーザーが中国原料のスポット購入を増やすことになるため，APTの相場も足元の水準からさらなる上昇が見込まれ，今年1～3月には350ドルを狙う展開もあり得ると考える。